
バカとリンと召喚獣

風影 黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとリンと召喚獣

【Nコード】

N0900Z

【作者名】

風影 黒

【あらすじ】

試験召喚獣システムが使われた試験校、文月学園。そんな中、Fクラスに所属することになった黒井小鈴。幼なじみの吉井明久と共に勉学とオカルトと恋(?)に忙しい学園生活をどう突き進む!?

プロローグ（前書き）

処女作となります。

少しでも楽しんでいただけたら嬉しいです。

プロローグ

文月学園に入学して二度目の春がやってきた。

校舎へ続く坂道を歩く人影がチラホラ見えてきた中、普通の人らしくない集団に囲まれている人影があった。

肩の辺りがボサボサに切られている赤い胴着を着ている武道家。下駄にリーゼント、学ランと昔のマンガから出て来た様な不良（口には葉っぱ）。剣道着を着てる者。薙刀を構える女性や覆面に鎌をもって愛を叫んでいる者（？）。どう見ても普通じゃない空間が文月の登校路で起こっていた。

だが、周囲にいる登校途中の生徒達は誰も目を向けない。気にもかけずに坂を登っていく。

それもそのはず。なにせ、普通じゃないこの空間がここで起こるのはよく（・・・）ある事だから。

そして、集団に動きがあった。

「……今日こそ、今日こそ勝たせてもらおうぞ、『黒子』！！」

「いざ」

「…尋常に」

「「「「「勝負！！！！」」」」」一人、二人、果てには全員が雄叫びの後、中心目掛け走り出す。その表情には決死さえも見えるようだった。

さて、中心にされてしまった人物はと言うと。焦った様子も見せていない。手に持っていたカバンを足元に落とし、指で眼鏡にかかる銀髪を払いながら、接近してくる人々を見ている。

そして…

「……ニヤハ！」

鈴の音と共に姿が消えた。

「西さん、ニーハオ」

玄関前で生徒達に封筒を配っている先生の中でも目立つ、浅黒い肌で短髪、去年の担任である先生に挨拶をする。

「…ニーハオは朝の挨拶じゃないぞ。それに、西村先生と呼ばんか、黒井!」

西村宗一郎。別称、鉄人。生活指導の鬼と呼ばれているが、去年から親友や悪友のおかげで学園で一番親しくなった先生だろう。

「そうでした。すみません、西さん」

それでも変えないから溜息混じりでこちらを見る。半ば去年から変わらぬやり取りで根負けしているのだろう。

「それとだ、黒井」

西さんが視線をずらして今登ってきた坂道に目を向ける。

「あれはまたお前か？」

「んゝ、でも誰にも触れてませんよ？」

視線の先には先程の人々が倒れて山積みになっていた。

「……まあいい。ほら、お前のだ」

そう言う箱の中から一枚の封筒を手渡す。

「ありがとうございます。…中身はわかりますが」

「そうだな。しかし、お前のやった事は人として誇れる事だ」

「……それでは失礼します」

頭を下げ、脇を通り抜けていこうとするが足を止め、再び話し掛ける

「西さん。カンなんですが今年もお世話になります」

「…ということはあいつらともか、ヤレヤレ」

お前のカンはよく当たるしなっと深い溜息をつく西さんに苦笑しながら今度こそ下駄箱へと向かう。

「……誇れる事、ね」

取り出したペーパーナイフで封筒を開き、中にあった紙を引っ張り出す。

『黒井小鈴……Fクラス』

「オレはそんなんじゃないよ」
こうして最低クラス生活が幕を開けた。

プロローグ（後書き）

お目通し、ありがとうございました。
良い作品を作れるよう、訂正、感想、アドバイスなどをしていただけたら嬉しいです。

プロフィール（前書き）

プロフィールです。

少しオリ主を特殊にしてみました。

プロフィール

プロフィール

黒井小鈴（くろい こすず）

銀髪ショート 眼鏡 猫（虎？） 明久に忠臣？

身長、明久より10？ぐらい低い

体型 細型だが鍛えているから女子（！！）としては少し重い

特技、暗算、嘘発見、手品

苦手、嘘をつくこと、怖い話

性格、明久を中心に回ってる？ 多人格

一人称ー二人称ー三人称、オレーお前ーあいつ

明久に恩があるので明久に尽くしたいとすら考えてる。

恋○無双の華雄さんに眼鏡をかけ、胸なしな感じ。目つきがきついのもあってあまり女子らしく見られず、楽だからと男子の制服を着用。

明久の上の階に一人ぐらし。明久と家族で知り合い。

プロフィール（後書き）

お目通しありがとうございました。

ということで、オリ主は男娘と書いて（オトメ）と言うのを目指してみます。

アドバイス、訂正、感想は大歓迎です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0900z/>

バカとリンと召喚獣

2011年12月3日13時52分発行